お墓と話そう
最近あなたは、ありがとうを伝えに行きましたか？
News Letter Vol.27

一度は見ておきたい重要文化財シリーズ 滋賀の旅編 その3

今回は「一度は見ておきたい重要文化財／美術品シリーズ」と題し、歴史的価値、学術的価値の高い石仏や石塔をご紹介し、その魅力に迫っていきます。

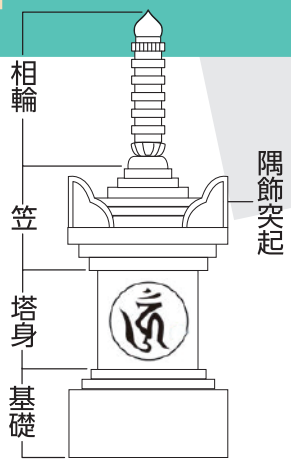
観光情報も添えていますので、ぜひ実際に足を運んでいただき、その雰囲気を肌で感じ、目で愉しみ、心で歴史に触れてみてはいかがでしょうか?

比都佐神社 宝篋印塔（滋賀県蒲生郡日野町十禅師）

近江鉄道本線・日野駅の南東にある滋賀県蒲生郡日野町十禅師。このあたりは弥生時代にはすでに開けていたとされ、飛鳥時代の頃には、開発の早かった近江八幡方面から見て「遠くにある野」ということで「ひさ野（久野）」と呼ばれていました。この久野の郷を守護するため久野大明神が祀られたのが、比都佐（ひつさ）神社です。創祀年代こそ不詳ですが、延長５年（927年）にまとめられた官社の国郡別一覧表である「延喜式神名帳（えんぎしき じんめいちょう）」にその名が記された由緒ある神社で、以降も、地元豪族の崇敬を集め、栄えていきます。

比都佐神社の拝殿の西側に、国の重要文化財に指定されている宝篋印塔（ほうきょういんとう）があります。

宝篋印塔とは



宝篋印塔は、墓塔・供養塔などに使われる仏塔の一種で、「宝篋印陀羅尼経（だらにきょう）」という経典を内部に納めたことが、その名の由来となっています。中国から伝来し、日本で独自の発展をしたといわれ、鎌倉時代から江戸時代頃に全国各地で信仰の塔や墓石として盛んに作られました。

一般的に上から「相輪（そうりん）」「笠」「塔身（とうしん）」「基礎」の４つの部位で構成されます。笠の四隅には隅飾（すみかざり）と呼ばれる突起があるのが特徴です。また、基礎の上面には反花（かえりばな／下側へ反転するように開いた蓮弁）を据えたり、塔身を２～３段の階段状に据えることもあります。塔身の４面に四方仏を梵字で刻むことなどから、宝篋印塔は多数の如来が集っているとも考えられ、ご先祖様の供養はもちろんのこと、子孫を守り、一族の繁栄へと導くともいわれています。

特　徴

比都佐神社宝篋印塔は花崗岩製で、現高約175cm。鎌倉時代後期である嘉元２年（1304年）に造立したことを示す刻銘が基礎の西面にあります。塔身と基礎には刻銘があり「亡き父の12回忌」という造立目的を知ることができます。

規模が大きく、細部の造形が優れており、日本有数の石塔と評される貴重な宝篋印塔です。

なお、1930年５月23日に国の重要文化財に指定されました。

周辺の観光情報

比都佐神社をはじめとする日野町内の神社では、県の無形民俗文化財「日野のホイノボリ」という行事が毎年春に行われます。

日野では竹ひごのことを「ホイ」と呼んでいます。細長く割った竹ひごに白やピンクの紙をつけた「ホイ」を幟（のぼり）の先から傘のように取り付けた花状の幟が、「ホイノボリ」です。疫病の退散を祈る鎮火祭が起源となっています。しだれ桜のように垂れ下がるホイノボリは日野に春を告げる風物詩です。

※新型コロナウイルス感染症の影響で、行事内容等が変わる場合がございます。事前に各神社や観光サイト等をご確認の上お出かけくださいませ。

比都佐神社への交通アクセス

〈鉄　道〉近江鉄道本線日野駅から徒歩15分

〈自動車〉名神高速「八日市IC」より国道421・307号経由で約20分

名神高速「蒲生スマートIC」より国道477号経由で約15分

まとめ

宝篋印塔は鎌倉時代から江戸時代頃に全国各地で信仰の塔や墓石として盛んに作られたこともあり、今もなお、当時のままの姿を残すものが存在します。経年により一部を欠いてしまうことがあっても、地元の方の強い想いにより復元され、今日も美しい姿を見せてくれています。長い年月をかけて受け継がれてきたその姿を、ぜひ直にご覧いただき、当時の様子に想いを馳せたり、受け継いできた人々の心に触れてみてはいかがでしょうか。